

芸術と文化

選 択

開講年次：1年次後期

科目区分：講 義

単 位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：芸術作品（アート）と聞いたとき、わたしたちは何をイメージするでしょうか？ピカソやゴッホのような天才たちの作品、なにやら高尚なもので、美術のセンスや知識がないと理解できないもの、あるいは美術館や博物館に足を運んで鑑賞するものなど。つまり、わたしたちの日常生活にあまり関係のないものだという印象をもっていらっしゃる人が意外と多いのではないのでしょうか。

しかし美術の歴史を紐解くと、現代のポスターやチラシ、テレビのCMのような広告もヴィジュアル（視覚的）な図像研究の重要な部分であることがわかります。古代世界の死亡率が高かったころは、子どもさんの母体が崇拜されたり、病や死から守ってくれる護符をみにつけたり、土地の神を祀る神殿をささげたり、これらもアートです。さらに、王侯君主が肖像画を描かせて後世にその栄光を伝えようとしたり、教会堂のなかを宗教画や聖人の彫刻で満たして人々の信仰へと導こうとしたり、これらも立派な芸術の歴史です。

今日、ヨーロッパ旅行に出かける人が増えていますが、このような美術作品を見ることは大きな目的のひとつです。そこが観光スポットとなることで、今度は地域の経済効果にも繋がるのです。つまり、美術とは人間社会にとって精神的にも実質的にも“役に立つもの”でその時代、社会のニーズに応じて生み出されてきた産物なのです。

本講義は、こうした美術（Visual Art）と人間社会の関わり方を美術史の専門知識をもって科学的・歴史的に考察していきます。美しい絵や建物を見ることは楽しいですが、その背景にある歴史的、社会的事柄に目を向けつつ、西洋美術の分析方法を学んでいきます。

- 到達目標**：①美術作品を分析するための方法論（様式論、図像学、図像解釈学）の理解とトレーニング。
②専門用語・専門知識の習得、およびイメージ・リテラシー（図像の読み方）を学ぶ。
③実際に自分たちの力で図像分析し、敷衍して社会や歴史的事象を分析的に見直す知を身につける。

■**担当教員**：望月 由美子

■授業計画・内容：

- 第1回 オリエンテーション：イメージの歴史を学ぶことの意義と方法論
- 第2回 ルネサンスの芸術革新 — 人間感情の誕生
- 第3回 ルネサンスの芸術革新 — 遠近法の発明と空間の誕生
- 第4回 盛期ルネサンスの美術：レオナルド・ダ・ヴィンチの世界観
- 第5回 北方ルネサンス：宗教改革前夜のネーデルランド絵画①
- 第6回 北方ルネサンス：宗教改革前夜のネーデルランド絵画②
- 第7回 バロック美術：対抗宗教改革期におけるカトリック教会の喧伝芸術様式
- 第8回 ディスクリプション作業
- 第9回 バロック美術：オランダ市民絵画におけるヴァニタス（はかなさ）の寓意
- 第10回 バロック美術：ヴェルサイユ宮殿と太陽王ルイ14世のセルフイメージ
- 第11回 ロココ美術：愛妾ボンパドゥール夫人の時代と文化
- 第12回 ロマン主義の美術：フランス革命期の疾風怒濤の時代とヨーロッパ絵画
- 第13回 19世紀リアリズム、ラファエロ前派：産業革命期のヨーロッパ絵画
- 第14回 印象派
- 第15回 指輪物語～リングの歴史と思想について

■**教科書**：無し。毎回、教官が作成したレジュメを配布します。

■**参考文献**：講義のなかで適宜お伝えします。

■**成績評価基準と方法**：参加型授業形式で毎回、参加者には発言を求めますので積極的に参加してください。授業内容の理解を確認するための課題提出と授業の参加態度も評価対象とします。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	◎	講義内容の理解と図像学的な知識の定着度を総合的に図ります。	70
課題	◎	○		毎回講義のなかで練習している作業を実際に課題としてまとめます。	30
授業態度				発言の積極性、集中度、礼儀態度	授業中の携帯電話やPCの使用など、甚しく悪い場合は欠格要件となる。
出席				10回以上の出席 遅刻3回で1回欠席とみなす	欠格条件
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：